

令和5年度全国ビジネス文書教育研究協議会 報告

開催日:令和6年2月10日(土)13:00から

(オンライン開催 Webex Meet アプリ利用)

参加者:徳島県立富岡東高等学校 橘 靖子

1. 開会行事

- 2. 講話 文部科学省 初等中等教育局 参事官(高等学校担当)付
産業教育振興室 教科調査官 田中 圭 先生

「商業教育の現状と課題」

- ビジネス文書教育でどのような資質・能力を育成するのか
ビジネス文書の習得=事務系の就職につながるのか?

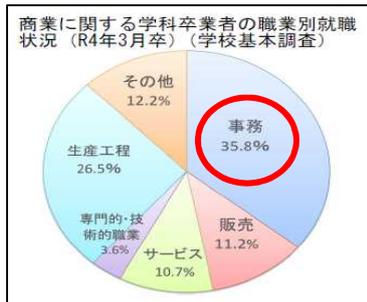


図1

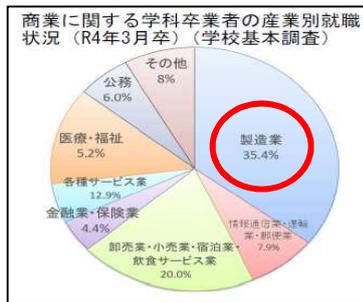


図2

図1・図2 近年の進路状況のグラフより、商業科の生徒は事務職以外の職種を希望する割合も多いという現状があり、どのような人材を育てれば良いかを考え指導に取り組む必要がある。

- どの科目でビジネス文書の指導をしているのか … 多くの学校では情報処理ではないか
情報処理の育成を目指す資質・能力

(1) 企業活動と情報処理
(2) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク
(3) 情報の収集と分析
(4) ビジネス文書の作成
(5) プレゼンテーション

学習指導要領「情報処理」より抜粋



どのような学び方が必要か?
どのような学習活動が必要か?

多くの学校で、企業と連携した商品開発などの取り組みがされている。企業と繋がった活動をするとき、企業への案内文や報告の文書を誰が作成をしているか(多くの学校では先生方が作成されているのではないか?)
検定で身に付けた知識や技術を活かせるような働き方をしなければいけない→検定での学習が活かされていない。
企業活動とは、(1)~(5)に示したような内容を理解し、文書作成の技術を習得することで実務に即した指導となる。
それらを理解させないまま、1年生の4月から「検定があるから」という理由だけでビジネス文書の指導をしてしまうと学習指導要領へのズレが生じてしまう。検定試験を通して、ビジネスの場面を想定した学習活動を行い、生徒が活用できる場面を作っていくことが大切である。

3. ビジネス文書実務検定試験について

(1) 出題方針

- ・大きな変更なせず出題

